平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	心理学(Psychology)			授業コード	E040151
担当教員名	山本　義史			科目ナンバリングコード	E11001
配当学年	1	開講期	後期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	社会福祉士の指定科目(選択)です。 NSCA-CPTの指定科目です。				
受講心得	遅刻、講義中の携帯電話の使用、おしゃべり、無断外室など、他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。大学生として最低限のマナーは守って履修してください。				
教科書	なし。				
参考文献及び指定図書	あなたのこころを科学するVer.3　古城和敬他(編著)　北大路書房 新・社会福祉士養成講座 第2巻　心理学理論と心理的支援　社会福祉士養成講座編集委員会(編)　中央法規 新・介護福祉士養成講座 第13巻　障害の理解　介護福祉士養成講座編集委員会(編)　中央法規 新・介護福祉士養成講座 第14巻　こころとからだのしくみ　第2版　介護福祉士養成講座編集委員会(編)　中央法規 福祉心理臨床学　　十島雍蔵(編)　　ナカニシヤ出版 パーソナルトレーニングの基礎知識　　福永哲夫(監修) Essentials of Personal Training　　Beachle、T.R. & Earle、R.W.				
関連科目	発達心理学、臨床心理学、社会心理学、老年心理学、カウンセリング、精神保健学、心理アセスメント、コミュニケーション演習、その他社会福祉士指定科目およびNSCA-CPT指定科目				

授業の目的	本講義を通して、「こころの力」「社会人基礎力」「職業能力」「専門能力」の4つの力が結集した「人間力」を育成をベースに、社会貢献や地域の活性化・福祉に必要な実践的な知識・技術を習得します。特に、専門的力量の育成として人間へのあくなき関心と人間の心についての基礎的な知識の修得を目標とします。心理学を学ぶ意義は、他人の心の理解と自己の客観的把握です。講義ではこれまで開発されてきた心をとらえるための工夫を凝らした方法や、これまでに明らかになった基礎的な成果について解説していきます。とくに、人間の基本的な心のしくみにあたる知覚・認知・ストレス・動機づけ・対人認知・人間関係について考えます。
授業の概要	心理学的な考え方、ものの見方、人の見方、方法、これまでの成果について学びます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： 心理学とは何か 心は直接見たり、さわったりすることができません。したがって、心理学では心を科学的に調べるための工夫を凝らしてきました。刺激を与えて、人間の行動を観察・測定して、その行動から心を推測する方法について考えます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「自己開示の返報性と自己開示の効果について」まとめたレポートの提出(2h・2h)
第 2 週 ： ものを見る・知る(1) 知覚的世界　無いのに見える、在るのに見えないということがあります。あるいは、人と同じものを見ていると思っていても、同じものに見えていないこともあります。実際に知覚に関する心理学の図版を用いながら、見るということについて考えてみます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「知覚的世界について」まとめたレポートの提出(2h・2h)
第 3 週 ： ものを見る・知る(2)	

知覚の外在性　知覚の外在性について考えてみます。ものの世界である物理的世界と私たちの心の中で生じている知覚的世界を区別してみます。そして、ものは身体の外に在るように見えるが、それらが見えたときには、心の中の知覚的世界にも在ることを考えてみます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「図と地について」まとめたレポートの提出（2h・2h）
第 4 週 ： ものを見る・知る（3） 知覚の統合性　見えているものはまとまりをもっています。視野が等質な光に満たされていると、形は知覚されません。図と地が分化して、初めて形が知覚されます。図と地の関係について考えます。どのようなものが図になりやすいのかという、図になりやすい要因についても考えます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「図の群化（体制化）について」まとめたレポートの提出（2h・2h）
第 5 週 ： ものを見る・知る（4） 知覚と記憶　経験したことを適切な場面で活かすには、学習した結果を保存していなければなりません。過去に経験した内容を記銘し、保存し、後に再現する過程を記憶という。記憶の過程がどのように進むかを表現した記憶のモデルについて考えます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「文脈効果について」まとめたレポートの提出（2h・2h）
第 6 週 ： ものを見る・知る（5） 記憶と理解　どのような情報でも生のままで記憶されることはほとんどありません。それ以前の過去の経験から獲得してきた知識に沿って、いろいろな処理や加工を受けて、記憶すべき情報や記憶された情報は変容します。記憶の枠組みであるスキーマやその働きについて考えます	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「短期記憶とチャンクについて」まとめたレポートの提出（2h・2h）
第 7 週 ： ものを見る・知る（6） 認知　記憶すべき内容を単に機械的に丸暗記し、くり返すだけでは効率的な記憶法とはいえません。チャンク化・体制化・理解・記憶すべき情報の事態の必然性あるいは記憶術の視点から、記憶を促進させる方法について考えます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「スキーマについて」まとめたレポートの提出（2h・2h）
第 8 週 ： ものを見る・知る（7） 仮現運動と両眼立体視　その他の時間的・空間的な知覚の統合性について補います。例えば、アニメや映画の原理であり、物理的には静止したものが動いて見える現象である仮現運動やランダム・ドット・ステレオグラム等を用いて、平面的な網膜像を立体視するしくみについて考えます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「仮現運動について」まとめたレポートの提出（2h・2h）
第 9 週 ： ものを見る・知る（8） 知覚と運動の協応　奥行知覚の経験的手がかり（心理的手がかり）、つまり、学習された手がかりについて学びます。また、異なる感覚様相間の統合、すなわち異なる刺激源からの刺激が、1つの統一された対象の知覚に導くことや運動との統合について学びます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「奥行き知覚の経験的手がかりについて」まとめたレポートの提出（2h・2h）
第10週： ものを見る・知る（9） 錯視　物理的に計測された刺激やその変化に対して、私たちの知覚がずれてしまうことがあります。遠刺激と知覚が一致しない場合が錯覚です。近刺激の変化に知覚が対応しない場合を知覚的恒常性といいます。これらの現象について考えます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「錯視について」まとめたレポートの提出（2h・2h）
第11週： 自分を見る・知る（1） 自己　自己は心理学の中でも大きな研究テーマです。心理学の中でとらえられている自己について学びます。心理テスト1）自己概念2）私は誰（Who　am　I？）を実施してみて、実際に自己分析をすることで、自己について考えてみます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「アイデンティティ（自我・自己同一性）について」まとめたレポートの提出（2h・2h）

第12週： 自分を見る・知る(2) 　パーソナリティとは、個人の行動にみられる感情や意志の特徴をさし、一貫性と安定性をもつものであり、その人を特徴づけている行動傾向とされます。パーソナリティテストを実施してみて、自分のパーソナリティについて考えてみます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「パーソナリティについて」まとめたレポートの提出（2h・2h）
第13週： 自分を見る・知る(3) 　ストレス　ストレスについて学びます。とくに、ストレッサー（源、刺激）とストレス（反応）の視点から考えてみます。そして．実際にストレス反応を測定してみて、自分のストレスの程度を考えてみます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「心理テストPOMSを実施してみて、学習したこと・気づいたこと・感じたことについて」まとめたレポートの提出（2h・2h）

第14週： 他人を見る・知る(1) 社会的認知　自分のまわりにいる人間やグループそしてそこで起こるできごとについて、私たちはさまざまに推測し、判断を行うが、その心理的仕組みを解き明かすことが社会的認知の研究です。対人認知・印象形成・バイアスについて学びます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「自己モニタリングを実施してみて、学習したこと・気づいたこと・感じたことについて」まとめたレポートの提出（2h・2h）
第15週： 他人を見る・知る(2) クリティカル・シンキング　自分の考えであれ、他人の考えであれ、人間の思考に対して、いろいろな角度から、あれこれ批判的に考えてみることをクリティカル・シンキング（critical thinking）と呼んでいます。決めつけた考え方をしないための思考法を学びます。	「あなたのこころを科学する」の閲覧予習と授業ノートの復習後「クリティカル・シンキングについて」まとめたレポートの提出（2h・2h）
第16週： 期末試験 学習の総まとめと最終レポート（論文）を書きます。	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

〇単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①学習すること自体に興味・関心をもつこと。 ②自分および他者の心に興味・関心をもつこと。 ③以上を踏まえて、人間関係にチャレンジすること。
【知識・理解】	基本的な心理学の概念を理解すること。
【技能・表現・コミュニケーション】	授業中に対話や話し合いが必要な場合は，主体的・積極的に参加すること。
【思考・判断・創造】	身近なことにひきつけて考えられること。

〇成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**30点**		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**40点**	**30点**		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	**評価の実施方法と達成水準の目安**
レポート・作品等（提出物）	毎回の講義の最後にショートレポート（学習成果）・本日の課題を課します。その内容について点数化（4点満点×15回）し、評価に加えます。提出課題については，授業前に全体的に概要をフィードバックします。評価方法は以下の通りです。 A（4点）　講義の内容をよく理解し、強い関心をもって自分の考えをしっかりと述べることができている。 B（3点）　講義の内容をよく理解し、振り返ることができている。 C（2点）　講義の内容をだいたい理解し、振り返ることができている。 D（1点）　講義の内容を一部理解し、振り返ることができている。
発表・その他（無形成果）	